

令和3年度 北海道羽幌高等学校 自己評価票（教職員） 集計

9月14日（火）実施 回答数20名

A:あてはまる＝4点 B:だいたいあてはまる＝3点 C:あまりあてはまらない＝2点 D:あてはまらない＝1点

領域		評価の観点	達成状況		取組の適切さ		改善に向けた取組
			平均	前年平均	平均	前年平均	
学校運営	組織運営	1 本校の学校教育目標や教育実践は、生徒の実態や保護者・地域住民の願いを踏まえたものとなっている。	3.40	3.42	3.40	3.37	○保護者の方とかかわる機会を設ける。 ○zoomなどICT活用が常態化すれば、一層改善できる。 ○コロナ禍で外部との連携がとりにくくなっている。総合的な探究の時間はSBFとの連携で3年間を見通した指導をすべき。
		2 育成を目指す資質・能力を踏まえ、学校内外の教育資源を活用した教育活動が実践されている。	3.25	3.26	3.35	3.32	
		3 前年度の学校評価や反省事項に基づいて、教育活動の改善を適切に行っている。	3.25	3.11	3.25	3.16	
	教職員の資質向上	4 信頼される学校づくりに向けて、交通法規等の法令遵守や体罰防止など服務規律の保持及び危機管理に努めている。	3.60	3.63	3.60	3.53	○研修機会が少ない(複数意見)。校外研修が必要。 ○業務の平準化が必要。(複数意見) ○教員間のコミュニケーションが必要。 ○コロナ対応が部活動によって異なる。心配である。 ○1週間後の予定が確認できるくらいの心の余裕がほしい。 ○コロナ禍でもあり、以前より改善されている。 ○仕事量が多く、勤務超過が常態化していることが問題。 ○職員全員にタブレットを配布すれば資料データが共有化されて業務量減少できる。
		5 研修を積極的に推進し、実践的指導力の向上に励み、資質向上に努めている。	3.20	2.95	3.05	3.05	
		6 効率的な業務の精選・遂行とそのスケジュール管理に努めるなどして、「働き方改革」を進めている。	2.80	2.63	2.85	2.79	
教育活動	総務・教務	7 学習シラバスを活用した授業展開や観点別評価により学習評価を適切に行い、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図っている。	3.20	3.11	3.20	3.05	○コロナ禍においてHPやclassiは有効である。家庭とも連携ができる。 ○評価について実践事例を含めて研修をすべきである。 ○教科内での話し合いが少ない。 ○家庭学習のやり方を教えるべき。 ○教科横断的な流れができていない。道徳教育と同様に進めるべき。 ○学習ツールとしてclassiは有効である。(複数意見) ○コロナ禍で教育活動に制限がかかっているが、収束後は改善されていると思われる。
		8 知識・技能の習得に加え、教科横断的に思考力や判断力、表現力などの活用学力を育む授業を実践している。	3.10	3.16	3.25	3.16	
		9 自主的・意欲的に学習(特に家庭学習)に取り組む習慣を身に付けさせる工夫を行っている。	2.85	3.16	3.00	3.26	
		10 HPやメール配信、各種通信等で本校の教育活動を外部に積極的に発信している。	3.30	3.68	3.40	3.68	
		11 学校行事の公開や地域の行事等への参加を通して積極的に地域や関係機関・他校種等との連携に取り組んでいる。	3.00	3.11	3.10	3.42	
		12 学校とPTAの連携が十分図られ、PTA活動も充実した取組になっている。	2.85	3.32	3.10	3.26	
	生徒指導	13 いじめ防止に向けた校内体制が確立されており、日常から生徒の状況把握及び未然防止・早期発見に努めている。	3.30	3.47	3.30	3.42	○コロナ禍でもできるボランティア活動を検討すべき。 ○部活動のルールが曖昧。時間と休みを徹底した方がよい。部活動の整理も必要と思います。 ○自分のことを見つ直す教育活動が必要。 ○生徒情報が共有化されていない。共有化を希望する。 ○もっと生徒主体的に学校行事や部活動をさせた方がよい。
		14 学校行事や部活動等を通して生徒が自ら考え仲間と協働する力を育んでいる。	3.45	3.37	3.40	3.58	
		15 各教科の授業や各種教室・講演会等を通して命や健康・安全の大切さを指導している。	3.40	3.53	3.40	3.47	
		16 ボランティア活動等の地域と連携した活動を通して自尊感情や自己有用感の高揚を図っている。	2.95	3.11	3.05	3.21	
	進路指導	17 生徒の自己実現に向け、3年間を見通した組織的・体系的な進路指導(キャリア教育)を行っている。	3.15	3.16	3.10	3.21	○幅広い学力層の中で上位層をどの様に伸ばしていくのか学校全体で議論が必要。 ○目的をもっと明確に。 ○工夫して「総合進路ガイダンス」が実施できたことは良かった。 ○進路指導を組織化を図るべき。学年や一部の先生の負担になっている。
		18 収集・分析した進路情報を進路ガイダンスや保護者説明会などを通して生徒や保護者に適切に提供している。	3.40	3.26	3.35	3.21	
	道徳教育	19 教科等横断的な視点により学校教育全体で道徳教育に取り組んでいる	3.05	-	3.05	-	○小中学校と連携をした方がよい。 ○教科内での取組が必要。
		20 地域の人材や関係諸機関と連携した道徳教育に取り組んでいる	3.05	-	2.90	-	